

みてみて 1歳6か月児

特徴

- ☆赤ちゃんから幼児への移行期に入るこの時期は活動範囲が急速に広がります
- ☆興味が広がり、気になるものや欲しいものなどを指さして教えてくれます
- ☆人に関わることが活発になり、やり取りを楽しむことが増えます
- ☆物の名前を理解し、言葉を話すようになります



発育のようす

全身の運動

- ✿ 一人で歩ける、物をもって歩く
- ✿ 片手で支えられて階段をのぼることができる
- ✿ しゃがんで遊ぶことができる

手指の動き

- ✿ なぐり書きができる
- ✿ 積み木を2~3個積む
- ✿ 道具を使って遊ぶことができる

ことば

- ✿ 名前を呼ぶと振り向く
- ✿ 「ママ」「ワンワン」など意味のある言葉を言う
- ✿ 知っているものを指さす



社会性

- ✿ 大人の簡単な行動をマネできる
- ✿ 好きな遊びに夢中になる
- ✿ 感情表現が豊かになり喜怒哀楽を表せる

子どもと遊ぼう！！

幼児期は遊びの中で子どもの成長を発見する場面がいっぱいあります。生活の中に遊びを取り入れたり、成長に合った遊びでいろいろな体験を一緒に楽しみましょう。

体を使った遊び



全身を十分に動かす遊びで運動能力を育てましょう。戸外は創造性を高める魅力的な刺激がいっぱいです。公園などで光や風にあたり、葉っぱや土などに触れ合うことで五感をはぐくみましょう。

ごっこ遊び ・指先を使った遊び



道具を使うことが上手になる時期のため、積み木やブロック、お絵かきや粘土遊びが楽しくなります。ごっこ遊びは記憶力が発達してきた証拠です。たくさんごっこ遊びをして社会性を伸ばし、感情のコントロールを身につけましょう。

ことば・関わり



絵本は想像力を育てたり、ゆっくりとことばを覚えることで心を豊かにします。メディアに頼りすぎないように時間を決めるなど使い方には注意しましょう。また、日常生活の中で物の名前をゆっくりはっきり教えてあげましょう。

ワンポイントアドバイス



- ✿この時期は自立心を伸ばすように心がける
- ✿子どものやる気を援助したり、達成感や自信を持たせることが大切
- ✿事故や危険に注意しつつ、やりたいことができるようにサポートし、やりたくなった気持ちをほめて、自分でできるという万能感を満たしてあげる
- ✿人とのやり取りの中でコミュニケーションが豊かになり、ことばの理解・発語が広がる
- ✿「〇〇だね～かわいいね」「見せてくれるの？ありがとう」など、タイムリーに子どもに反応する



おまけ～トイレトレーニング～



排尿機能は生まれた時から自立していますが、トイレでできるようになるには手助けが必要です
3つの感覚を同時に繰り返し体験することでおしっこの感覚が育ちます



おしっこの感覚を体験しよう♪

放尿感

チー出る

耳から覚える

チー聞く

目から覚える

チー見る

STEP0：始めるタイミング



- ①一人で歩け、トイレに行ける
- ②言葉を理解し、片言でも意思を伝えられる
- ③おしっこの間隔が1時間半～2時間くらい空く



STEP1：おしっこの誘ってみよう



朝、昼寝の前後、食後など生活の節目で誘います。偶然でも出たらおしっこを認識するチャンスです。「チー出たね」とおしっこを見ながら声を掛けます。出なくても座ることが出来たら褒めてあげましょう。

STEP2：布パンツにしてみよう

布パンツはおしっこが足を伝うため、「おしっこが出た」感覚を認識しやすくなります。おまるやトイレで、一日の成功率が半分くらいになったら、布パンツに切り替えてみましょう。後始末は手間ですが、叱らずに「おしっこ出たね」と声をかけてあげましょう。

STEP3：知らせてくれるのを待ってみよう

成功率が高くなったら、自分から「おしっこ」と予告するのを待ちましょう。自分から知らせることができるよう「教えてね」と促しましょう。



おねしょはいつまで？

おねしょは成長とともになくなります。しかし、6際ごろになってもおねしょが続く場合は「夜尿症」の可能性もあります。まずは、かかりつけ医に相談しましょう。

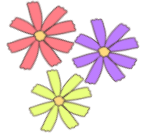
イヤイヤ



2歳児

2歳の特徴

- ☆ 言葉もだいぶ話せるようになり、ちょっとした会話が成り立つようになってきます
- ☆ 「イヤイヤ」など自己主張が強くなります
- ☆ 「ワンワン イタ」「ブーブー キタ」など2語文を話すようになります
- ☆ 体の成長と共に心や脳がめざましく成長し、昨日できなかったことがどんどんできるようになります



運動

- ❁ 体のバランスをとるなど身体能力が発達し、音楽に合わせて体を動かすことができるようになる
- ❁ ボールをける、ぶら下がるなど全身を使った遊びが活発になる
- ❁ 積み木を高く積んだり、シール遊びなど指先を使った遊びをする



遊び

- ❁ 道具を使って一人遊びや、やり取り遊びが広がる
- ❁ 想像力や社会性が育ち、見立て遊びやごっこ遊びができるようになる



生活



- ❁ 食事・衣類の着脱など自分でやりたがる
- ❁ 排泄機能が整いはじめ、尿意を伝えられる
- ❁ 一人でトイレをするようになる
- ❁ 決まった場所に物を片づけたりする
- ❁ 嫌いなものは食べないなど好き嫌いがはっきりする

ことば



- ❁ “言葉の爆発期”ともいわれるほど、どんどん話せる言葉が増えてくる
- ❁ 「ワンワン イタ」「チャチャ ノム」など物の名称以外に動詞が使えるようになる（2語文が話せる）
- ❁ 「これなあに？」と質問することが多くなる
- ❁ 部分的に歌を歌う

イヤイヤ期の原因と意味

個人差がありますが、2歳から3歳頃は第一次反抗期がみられます。2歳頃になると自立心が芽生えて何でも「自分でチャレンジしてみたい」という欲求が生まれます。しかし、衝動や欲求を抑える脳の抑制機能が未熟であることや体を動かす機能が発達途上であることなどからまだまだ上手くできません。そんなもどかしい気持ちを言葉で表現すること、感情を抑えることができないためにそれら全てを「イヤ」という言葉やかんしゃくで示します。ですが、これは発達の過程でみられることで、とても大切なことです。





「イヤイヤ」反抗期への対応

つい「ダメ」と叱ってしまいがちですが、子どもの考えを全否定することになってしまいます。「イヤ」の気持ちに寄り添い、言語化してあげましょう。「どっちにする？」と子どもに選ばせたり、順番を選んでもらうことで、自分で選んだ満足感も手伝って気持ちを切り替えやすくなります。また、「お茶飲もっか」と目先を変えて対応するのも効果的です。

かんしゃくへの対応



かんしゃくを起こしてしまった場合には、叱らずに子どものやりたい気持ちを理解して受け止め、できたことを褒めてあげましょう。例えば、「〇〇したかったんだね」「上手くできなかったんだね」など気持ちを代弁することも重要です。また、抱きしめる、外の空気に触れさせる、落ち着いてから対処するなど気分転換や安心感を与えてあげることも有効です。

子育てしてをしている皆様へ

イヤイヤ期の子どもの関わることはとても大変で、逃げ出したくなることもあると思います。現実には上手くいくことばかりではなく、子どもにきつくあたってしまったたり、自分を責めてしまうこともあるのではないのでしょうか。

【イライラしてしまったときは】

- “なぜ” 怒っているか、自分を責めているかを整理する
- 自分の気持ちを誰かに話す
- 深呼吸をしてリラックス
- 甘いものを食べる、水分を摂る、手を洗うなど別の行動をしてリフレッシュ
- 子どもの安全を確認したうえで、その場を少し離れる

他の保護者と比較する必要はありません。頑張っている自分を認めてあげること、褒めてあげることが大切です。今よりも楽しく日々を過ごせるように、自分に合った気持ちのコントロール方法を見つけましょう♪

おまけ ～メディアとの付き合い方～



一緒に過ごす時間が長い保護者とのコミュニケーションは、子どもにとって言葉の宝庫です。覚えた言葉が増えていくことでコミュニケーションの輪がさらに広がります。今一度、利用方法を見直してみましょう。

- スマホやテレビ、DVDなどの利用時間は何時までよいということはありませんが、「メディアに子守」状態は避けましょう
- 利用時には、時間や内容を保護者が考え、コントロールしましょう
- 大人もスマホを見ていると視野が狭くなります。スマホを見ながらの子育ては、子どもから目を離すことになるため注意しましょう